公開研究会「移民・難民をめぐる文化政策」

原サチコ、ドイツの公共劇場における難民支援を語る

ゲスト

原 サチコ(ハンブルク・ドイツ劇場専属俳優)

ファシリテータ

藤野 一夫(神戸大学大学院国際文化学研究科)

2016年8月11日 🚥 14:00~17:00

会場:

ギャラリー島田 Trois(神戸三宮・北野ハンター坂) 神戸市中央区山本通2-4-24 リランスゲート1F http://gallery-shimada.com/?page_id=1699

参加費無料(先着25名)

参加申込:藤野一夫 fujino@kobe-u.ac.jp (要申込)

欧州への難民の大量移動に揺れるドイツでは、多くの公共劇場が直接、各都市にたどり着いた難民へ手を差し伸べる行動に出た。そして2015/16シーズンではドイツ中の劇場のレパートリー作品に難民問題が色濃く反映されたという。原サチコの所属するハンブルク・ドイツ劇場ではロビーを開放して難民の宿泊所を設け、劇場の俳優とスタッフは三ヶ月にわたり難民支援を続けた。原が自ら撮影した写真など見ながら、難民問題を投影した作品のプロダクションや、難民支援へのアクションの現状と課題について語ってもらい、深く議論したい。

原 サチコ:

1964年神奈川県生まれ、上智大学外国語学部ドイツ語学科卒の彼女は、演劇舎蟷螂やロマンチカで活躍した後、2001年渡独し、鬼才と呼ばれる演出家たちに見いだされ、東洋人どころか外国人もほぼ皆無のドイツ公立劇場で12年に渡り唯一の日本人俳優として居場所を確保し続けている。

主催 神戸大学大学院国際文化学研究科国際文化学研究推進センター JSPS研究拠点形成事業「日欧亜におけるコミュニティの再生を目指す移住・多文化・福祉政策の研究拠点形成」 共同研究グループ「移民・難民をめぐる文化政策」

協力 ギャラリー島田、アートサポートセンター神戸